

歯根嚢胞治療に影響を及ぼす 炎症性サイトカイン — apical microsurgery 後の骨性治療機序に 関する検討 —



小川 将
Masaru Ogawa

群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面外科講座・形成外科学講座

歯根嚢胞は慢性炎症を背景として発生・進展する病変であり、その治療過程には病変の完全摘出に加え、局所炎症環境の制御が重要である。歯根嚢胞の原因歯に対する外科的治療として apical microsurgery が適用されるようになり、治療成績は向上した。しかし、同様の術式を施行しても、術後の骨性治療には症例間で差がみられることがあり、その背景には局所の炎症状態が関与している可能性がある。

このような炎症環境を規定する因子の一つとして、炎症性サイトカインが挙げられる。炎症性サイトカインは骨のリモデリングに関与することが知られており、歯根嚢胞においても、これらのサイトカインの発現が術後治療遅延に関与している可能性がある。

これまで当科では、広範囲に進展した歯根嚢胞に対する嚢胞摘出および apical microsurgery 後の骨性治療に影響を及ぼす因子について検討し、穿通性骨欠損の存在、発生部位が上顎であること、ならびに嚢胞上皮における IL-1 β および TNF- α の高発現が、骨性治療を阻害する有意な因子であることを明らかにした。

本シンポジウムでは、これまでの骨性治療関連因子に関する研究を基盤として、歯根嚢胞治療を規定する炎症性サイトカインの役割に焦点を当て、apical microsurgery 後の治療機序について考察するとともに、今後の治療戦略の展望について述べる。

【略歴】

- 2008年3月 九州歯科大学歯学部 卒業
- 2008年4月 群馬大学医学部附属病院 臨床研修歯科医師
- 2010年4月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔・顎顔面外科 医員
- 2011年9月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔・顎顔面外科 助教
- 2020年3月 群馬大学大学院医学系研究科口腔顎顔面外科学専攻博士課程修了（医学博士）
- 2020年4月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔・顎顔面外科 講師
- 2025年7月 群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面外科学分野 准教授

【資格】

- 日本口腔外科学会専門医・指導医
- 日本顕微鏡歯科学会評議員
- 日本がん治療認定医（歯科口腔外科）